

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語コミュニケーション I		(NKT14D)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーション I A		(NKT14DA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日常的な場面で使われる日本語がある程度理解できる。また、そのための語彙や文法を身に着け、日常的に使用することができる。
全体の内容と概要	JLPTN3レベルの語彙・文法対策
授業時間外の学修	既習事項の復習
履修上の注意事項等	JLPT合格に向けて意欲的に授業に取り組むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	経験したことについて、体験したことや考えたことなどが表現できる①	前半、10分語彙問題の演習 後半、～始める。～ように言う。～という。 これの文法項目について理解する。
2	経験したことについて、体験したことや考えたことなどが表現できる②	前半、10分語彙問題の演習 後半、～ほど、～と、～ていく、～続ける、 ～ならの文法項目について理解する。
3	自分の周りの人などについて紹介したり、説明したりすることができる①	前半、10分語彙問題の演習 後半、授受、使役形、使役受け身形について理解する。
4	周りの人に生活や自分の関係を説明することができる	前半、10分語彙問題の演習 後半、～とする、～こともある、～ておいて、～テ形し まう、これらの文法項目について理解する。
5	参加募集のお知らせを見て、申し込みなどの内容が理解できる	前半、10分語彙問題の演習 後半、～によって、～に対し、～ため、～につき、～の とおり、これらの文法項目について理解する。
6	イベントなどについて、様子がイメージできる	前半、10分語彙問題の演習 後半、～のような、～によれば、～というと、～につい て、これらの文法項目について理解する。
7	試験の傾向を知る①	模擬試験
8	試験の傾向を知る②	模擬試験、FB
9	試験の傾向を知る③	模擬試験、FB
10	試験の傾向を知る④	FB
11	個人的なことについて、友達とおしゃべりできる	前半、10分語彙問題の演習 後半、普通形、縮約形など親しい人と会話する表現を身 につける
12	個人的なことについて、意見や感想を交えて友達とおしゃべりできる	前半、10分語彙問題の演習 後半、～たって、～に決まっている、～じゃない、～み たい、これらの文法項目について理解する。
13	レシピを読んで、どんな料理か理解できる	前半、10分語彙問題の演習 後半、～のように、～ほど～ない、～かわりに、～はも ちろん～も、これらの文法項目について理解する。
14	前期のまとめ	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY日本語能力試験N3
参考文献・資料等	N3パワードリル語彙・文法 N3ドリル&ドリル 語彙・文法
備考	